

対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【3】

— 『MITE! ティーチャーズキット 3』を用いた実践から —

吉田 貴富

A Study of Teaching Materials (Works of Art) Used for Interactive Gallery Talk Method Type
Appreciation 【3】

— A Result of The Practice Using “MITE! TEACHER’S KIT 3” —

YOSHIDA Takatomi

(Received August 5, 2010)

キーワード：美術教育、鑑賞、対話型鑑賞、教材

1. 経緯と目的

本稿は、吉田貴富「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察—『MITE! ティーチャーズキット1』を用いた実践から—」（大学美術教育学会誌第40号、2008年）、「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【2】—『MITE! ティーチャーズキット2』を用いた実践から—」（同誌第41号、2009年）の継続研究である。対話型ギャラリートークを学校現場に応用する際にしばしば疑問や悩みとして上がるのが作品選定の問題である。そこに登場したのが『MITE! ティーチャーズキット』であった¹⁾。このキットは、具体的なマニュアルやシミュレーション事例と作品の図版が掲載された冊子、それにパソコンによる投影を前提として図版を収めたCD-ROMがセットにされた形式で全3巻編成。第1巻が小学校3・4年生対象、第2巻が小学校5・6年生対象、第3巻が中学生対象となっている。各巻とも10のレッスンから成り、各レッスンには一定のテーマや共通性を持った3枚の図版が選定されている。

本研究の目的は、このキットに選定されている作品の、対話的ギャラリートーク型鑑賞における教材としての適性を検証することである。今回は、同キット第3巻『MITE! ティーチャーズキット3』を用いた実践結果を基に対話型鑑賞の教材についての考察を進めるものである。

2. 方法

2-1 対象

第1・2報同様、実践の可能性を優先し大学生を対象とした。キット第3巻を実践するにあたって、可能ならば第1・2巻経験者を対象としてみたかったが、それが可能な授業

や対象が存在しなかったため、積み上げ型の学習にならなかった。しかし、同キットの第2巻や第3巻を実践する場合に、かならずしも前段階のキットを体験した人を対象とする訳ではないことを考えるなら、対象が対話型鑑賞未経験者であっても一定の成果は得られると予想した。

2-2 実験（実践）に用いた授業

発表者が山口大学において担当している共通教育「芸術史（美術史）」の授業を用いた。開設期は2009年度前期、第1 Semester。水曜日3・4時限。対象者は全学部。受講者数（受講登録者数ではなく、最終回まで受講した人数）は29名。

全10レッスンを毎回1レッスンずつ順次実践していった。90分授業の最初に、毎回およそ30分間の予定で臨んだ。

2-3 記録

前年度はワイヤレスマイクを用いて改善を図った。アシスタントが発言者の元までワイヤレスマイクを運び、教室のスピーカーから出た音声を教卓上に置いたICレコーダーで録音するという方法であった。今回は、教室にワイヤレスマイクとスピーカーの設備が無く、教室も小さかったため、拡声器を使わず、授業者（ファシリテーター）がICレコーダーを持って発言者の近くへ行き音声を直接録音した。

2-4 アンケート

全10回分の全図版30点を、『MITE! ティーチャーズキット3』冊子からスキャンし、各回3枚の図版をa, b, cとし（例えばLesson1の3作品を各々1a, 1b, 1cとし）、A3判用紙に全図版30点をモノクロで印刷したプリントを全受講生に配付し回答をさせた。回答総数29名。

設問は前年度までと同じで、考察の主な材料となるのは以下の設問への回答とトークの展開・内容である。

- 1 (1) . 「比較的考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 1 (2) . それらの中で「一番考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」はどれですか、一つ挙げて下さい。
- 2 (1) . 「比較的考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 2 (2) . それらの中で「一番考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を一つ挙げて下さい。
3. 受講生みんなとのトーク（聞くことを含む）によってあなた自身の思考が最も深まった作品、即ち「最初に見た時の自分の思考」と「みんなとのトークによって展開した自分の思考」とのギャップが最も大きかった作品はどれですか？一つ答えてください。

3. 結果

実践した対話的ギャラリートーク型鑑賞の記録の概要を【資料1】として後掲する。ここでは第1・2報と同じく、紙幅の都合もあり、発言の逐語的再現ではなく、キーワードや要点を残しながら要旨としてまとめた。実際には、受講者はもっと豊かでニュアンスに富んだ発言をしているし、ファシリテーター（進行役）吉田も、対話型鑑賞進行の基本である受容・肯定・賞賛・復唱・言い換え・結び付け・焦点化・鼓舞・まとめ等を行い、発展的なトークや解説を行っている。

アンケートの集計結果を【資料2】として後掲する。

4. 考察

4-1 鑑賞者にとって考えやすい作品・考えにくい作品

1（1）において、全作品が1ポイント以上を獲得している。全30作品がすべて支持されているのである。これは第1巻・第2巻と同様の結果である。

以下の論述において、たとえば「L. 1エルンスト」と記述した場合には、「レッスン1に掲載されているエルンストの作品」という意味である。「掲載作品」と記す場合もある。単に「エルンストの作品は」と記せば、掲載作品を含めたエルンストの作品全般を指す。

1（1）において最多ポイントを獲得したのはL. 6マンテーニャとL. 5ミケランジェロ・ピストレットで各11ポイント。続いて、L. 2シャガール10ポイント、L. 5トニー・クラッグ9ポイント、L. 3古賀春江8ポイントである。ミケランジェロ・ピストレットとトニー・クラッグはいずれもインスタレーションであり、後述するように、アメリカが同キットのマニュアルで述べている作品選定の基本方針に反するとともに、筆者の予想では反応が鈍いと思われたが、予想に反する高評価である。L. 8森村泰昌も難解かと予想したが、結果は7ポイントと好評であった。

1（2）では、1から4ポイントの間で18作品に分散したが、最多はL. 5トニー・クラッグ4ポイント。次いでL. 8ジョージ・シーガル3ポイント、L. 1マレーヴィチ、L. 3古賀春江、L. 4マグリット、L. 6マンテーニャ、L. 7浅原清隆、L. 9デルヴォーが各2ポイントである。

トニー・クラッグとジョージ・シーガルのインスタレーションが好評なのも意外であった。他は、具象画で物語性が強い絵画作品であるという共通性が見られる。

2（1）において、L. 5ミケランジェロ・ピストレットを除く29作品が1ポイント以上を獲得している。これも第1巻・第2巻と同様の結果である。

2（1）において最多ポイントを獲得したのはL. 3中山岩太13ポイントで、次いでL. 1エルンスト、L. 10マックス・クリンガーが各12ポイントである。3ポイント離れてL. 4マグリットとL. 5ビル・ヴィオラが続く。

エルンストとマックス・クリンガーとビル・ヴィオラの結果は、筆者の予想通りであった。

エルンストの掲載作品は、ドアに描かれただまし絵的な絵であるが、立体物であり、いわばオブジェ的、インスタレーション的な作風であることから、スライドを通しての鑑賞に向かないのではないかと予想された。

マックス・クリンガーとビル・ヴィオラの掲載作品は、図版で見ても、プロジェクトで見ても、細部がわかりづらい。何が描いてあるか（映っているか）わからないことが、考えにくい原因であると思われる。さらに、後述する内容でもあるが、マックス・クリン

ガーについては連作版画のうちの1点であること、ビル・ヴィオラについては映像作品の1カットであることも、わかりにくい原因であると考えられる。

中山岩太とマグリットの作品については予想外であった。中山岩太の掲載作品はナラティヴな作風ではなく、いわば感覚的なコラージュであるからであろうか。マグリットの作品の多くは小学校高学年以降の児童・生徒・大学生に人気が高いので、掲載作品にも特に問題はないと予想したが、意外な結果であった。

2 (1)においてポイントが高く、かつ1 (1)においてポイントが低い作品は「考えにくい作品」だと言える。L. 1 エルンスト、L. 3 中山岩太、L. 5 ビル・ヴィオラ、L. 10 マックス・クリンガーなどにその傾向が強い。

4-2 トークによって思考が深まった作品

設問3では、最高4ポイントで、全30作品の約半数の16作品が挙げられた。

L. 9 ルイーザ・ヴィダルが最高で4ポイントである。この作品については、資料1 トーク概要にあるとおり、初発の「貧しさ」という感想から、「喪服」「死」「母性」「愛情」へと、幅広くかつ建設的にトークが展開したことがわかる。何が描いてあるかが明快でナラティヴな具象絵画である点が、見て考えるのに適していると言える。

次いで3ポイントが、L. 4 ヘレン・レヴィット、L. 8 ジョージ・シーガル、L. 8 森村泰昌である。

ヘレン・レヴィットの掲載作品については、男女2人の関係について対照的な解釈が出されて興味深かった。

ジョージ・シーガルのインスタレーションについては、細部が見えにくいにもかかわらず、受講者が豊かな想像力をはたらかせて、様々な解釈を述べた。

森村泰昌の掲載作品については、苦笑から始まり、トークが進むに連れて、ベールが一枚一枚剥がされていくかのように、作品の細部への注視と解釈が述べられ、この作品が単なる思い付きやパロディではないことに気づかされ、作者の意欲や様々な意図を感じさせられる方向で価値付けられていったことがトーク概要に記されている。

4-3 細部が見えにくい作品

L. 10 マックス・クリンガーの作品については既に述べた。L. 3 シャヴァンヌは、女性の右手からペガサスにかけての描写が見えにくい。今回の実践では、ファシリテーターがフロア鑑賞者に細部を注視させながら補足的に説明した。これは対話型鑑賞において本来的・理想的な進め方ではない。

L. 4 ティツィアーノについて、キットの冊子見開き右下のコメントには「胸元に紙切れがのぞいています。ラブレターかな？よく見ると作者の名前『Tiziano』の文字」とあるが²⁾、プロジェクトを通して見ると、文字はおろか紙切れさえも発見しにくい。実際に、今回の実践においても、受講生から紙切れに関する指摘は無かった。

4-4 見誤り

対話型鑑賞においては、しばしば見誤りが起きる。それが鑑賞者同士によってトークの中で発見・修正される場合もあれば、誤認が最後までそのままにされる場合もある。L. 10 ジェン・グエン=ハツシバのように、鋳（もり）だと思えたものが、実は支えの棒であっ

たというような展開や、L. 10マックス・クリンガーにおいて「生首」とされたものが、途中で「シャツ下の膝（胴体・下半身）」が発見されたというような展開は、その意外性によって驚きや揺さぶりをもたらし、トークや思考をエキサイティングなものにする。

しかし、途中で修正されることなく、見誤りの上にトークが積み重ねられていくことは好ましいことではない。今回の実践の中では、L. 7北野恒富において、カメラを「鞆」だと見誤った意見が出されたのに対して、ファシリテーターはカメラに焦点化し全員に細部を確認させて軌道修正をはかった。

どのような作品を教材に用いても見誤りが起きる可能性はある。しかしその可能性を小さくすべく、「何が描いてあるか明快な作品」を選定することが大切である。

4-5 部分を見せることの問題

作品全体でなく部分が掲載されている図版がいくつかある。L. 2《ガンタパ》、L. 4ティツィアーノである。

L. 2《ガンタパ》は、いわゆる西洋的なタブロー形式の作品ではないので、部分を取り上げてもさほど問題はないのかもしれない。しかしL. 4ティツィアーノについては、筆者は実践前から問題があると考えていた。どう見ても絵画作品として不自然だからである。実践してみると、そのことがトークの冒頭において受講者から指摘される結果となった。

L. 7ロバート・ウィルソンも、立体作品・インスタレーションではあるが、やはり部分である。掲載作品を、この作品の全体写真と比べれば、良し悪しとは別に、各々から受けるイメージが大きくことなることは明らかである。

4-6 連作の問題

連作のうち1枚である作品がいくつか選定されている。写真作品にしばしばあるような、大きなテーマのもとでのシリーズ作品ではなく、もっとストーリー性が高い連作である。L. 6トレイシー・モファット、L. 9デルヴォー、L. 10マックス・クリンガーがそれに当たる。今回筆者は、実践前の準備段階で各作品について可能な限り情報を集め、連作のうち入手可能な図版を集めた。それらを見ると、1枚だけを見せられていた時のもどかしさは氷解し、描かれている物語が鮮明化し、掲載作品の解釈も大きく変わっていった。このことを今回の受講者にも体験してもらいたいと思い、トレイシー・モファット《何かもう少し》については、トーク後に連作全9枚を鑑賞させた。

4-7 立体作品・インスタレーション

アメリカは、同キット冊子中「作品について」において次のように述べている。

子どもたちはどんな作品でも話をしますが、やはり子どもの鑑賞に向けた作品とそうではない作品があります。

(中略)

本書で取りあげた作品は、平面に映写されることを考慮して、視覚的に強くはたらきかけるものを選んでいきます。したがって、四方から見る彫刻や立体作品、抽象作品、インスタレーションは省き、物質としての存在感やスケール感に依存した作品も避けましょう。こうした作品は美術館で現物を見るほうがよいので、その機会を待ちましょう³⁾。

この原則に自ら背くかのように、このキットには立体作品やインスタレーションが選定されている。第3巻においては、L. 1エルンスト、L. 5ミケランジェロ・ピストレット、L. 5トニー・クラッグ、L. 7ロバート・ウィルソン、L. 8ジョージ・シーガルである。L. 5ミケランジェロ・ピストレットのように、考えやすく、トークが盛り上がる作品もあるが、立体作品やインスタレーションは、細部や見えない部分がどうなのかかわからないというもどかしさがつきまとい、フロア鑑賞者の主体的な鑑賞の前に、ファシリテーターが説明をせざるを得ない場面が多くなる点は、この手法の教材としての適性の低さを示している。

4-8 映像作品

L. 5ビル・ヴィオラ、L. 10ジュン・グエン＝ハツシバはいずれも映像作品の1カットである。

L. 5ビル・ヴィオラについて、冊子見開き右下に記された注意書きには「服を着たまま水中に飛び込んだ人を撮ったビデオ作品です」とあるが⁴⁾、図版に見ることの出来るイメージは、筆者の解釈も今回の受講者の解釈も、上から落ちてくる水に打たれている場面であり、冊子のこの記述と、図版から受けるイメージは合致しない。はじめに意見がなかなか出なかった原因は、「何が描かれて(映って)いるのかわかりづらい」ことだと思われる。

いずれの作品も、トークが遠回りしている感は否めない。トークのあとで、映像を鑑賞するのが理想的なのであろうが、著作権等の問題もあって、その実現は容易ではない。

4-9 アメリカ人の感覚、日本人の感覚

受講者の一人がアンケートに「2c、9bなどは、美術のヌードに慣れていない人は意見を言いにくかったと思う」と記している。筆者の対話型鑑賞指導の経験上、日本の大学生は性的なことを話題にしない。

アメリカは、キット冊子中の「Simulation 3」において、「13～15歳の生徒の典型的な対話例で模擬トークを体験してみましよう」として、「だって、キスしてるときって、こんな感じにもなったりして(クスクス笑い)」「ほら、強烈になっちゃったりしてさ(さらにクスクス笑い)」と記している⁵⁾。日本の場合、大学生でもこのように開放的なトークは期待できない。アメリカの描く「典型」とは、一体どこの国のどのような民族のどのような文化の中学生の典型的なのかは不明であるが、日本で発売されたキット集に掲載された模擬トークであるから、アメリカは日本の中学生を対象とした場合にでも同様の展開を予想したのであろう。アメリカは日本の中学生の実態を見誤っているのではないだろうか。

また、L. 10マックス・クリンガーについて冊子右下のコメントには「かなりクレージーでしょう？」とある⁶⁾。日本人にこのような感覚は稀である。実際に今回の実践においては、大学生の多くがこの作品と真剣に向き合い、「クレージー」とは正反対と言えるような非常に深刻な事態や状況を読み取っている。

5. 結語

今回の実践では、大学生ならではの教養・レディネスによってトークが成立した場面が多々あった。美術に関するもののみならず、神話、宗教、文学作品、映画、地理、歴史、科学などに関する知識・理解である。もちろん、アメリカが対話型鑑賞において「フロア鑑賞者が知っていることを語ることを嫌うように、これらが自由な鑑賞を妨げる方に作用することもしばしば起こるのであるが、このキットの対象年齢が中学生とされていることを考えるなら、これらの作品を基に、はたして中学生がどのような思考やトークを繰り返すのだろうか。それは今後の実践・研究に俟つほかはない。

註

- 1) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット1，同2，同3，淡交社，2005.
- 2) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット3，淡交社，2005，p.31.
- 3) 同，pp.55,56.
- 4) 同，p.33.
- 5) 同，p.21.
- 6) 同，p.43.

【資料1】

MITE3 トーク概要

S：学生，T：授業者・ファシリテーター（吉田）
1作品ごとに示された時間は、各レッスンにおける累計の所要時間である。たとえば、2枚目の後に示された時間は、1枚目と2枚目の所要時間の合計である。

【1】2009.4.22.（水）

(Vol.3, Lesson 1)

1. カジール・マレーヴィチ『乾草作り』1911/28年、川村記念美術館

- T：鎌を持っている。ズボンとのコントラストの付け方が対になっている。
S：明暗がはっきりしていて、人間も地面の緑もやさしい感じではない。
T：やさしい感じではない、あえて言葉で言うとか？
S：とげとげしいというか・・・
S：鎌と、何か食べ物みたいな物を持っているように見える。口元は鉄みたいなマスクをしていて、どうやってあれを食べたのかと。
T：例えどどんな食べ物ですか？
S：鮭っぽい色があります。
S：鎌を持っているので、狩とかに行ったのかなと。
S：体が、光沢感があって、ロボットみたいな感じがする。
S：ズボンも刃物に見えるし、地面も刃物に見える、鋭い線だなと。
S：背景が何なのかわからない。あの緑の山みたいなのは何なのだろう。
S：一番手前の人のズボンと上着みたいところは左上から光が当たっているように、腰のあたりの赤いところは、右側から光が当たっている。
S：中心の人物と背景はすごく対照的。中心の人物の上着と下のズボンが補色同士になっていて、周りの緑の景色から浮いて、毒々しい感じがして、背景の田舎の風景にはそぐわない。背景にいるその他大勢の人物はそれなりに調和しているけど、鎌とか鉄のマスクはさらにその違いを際立たせていて、それと緑の後の空の色がリンク。
S：背景のあの山みたいなのが、乾草、何か刈ったものを置いているような気がして、その後にあるテントが移民みたいなイメージを出していて、国で言うところのモンゴルみたいな感じになんかせせこましい感じがする。
S：服装が現代感のないけど、昔のじやないなら外国の服装かなと。
T：同じ田舎風景を描いていても、ミレーの『牧穂拾い』とか「晩鐘」とかありますよね、あんなに写実的な絵とはずいぶん趣が違う絵ですね。
(16分10秒)

2. 森山大道『少年（2）・宮城県松島町』1973年、宮城県美術館

- T：これはもう見てわかるとおりの写真なんです。絵ではなくて写真です。
S：めちゃくちゃ目つき悪い、態度も悪い子どもだなーと。（笑）最近の子どももじゃないかなと。ロスト・ジェネレーションっていう時代の高校生が荒れた時代の態度と幼い子どもがミックスされたような感じ。
S：真ん中の少年だけ光が当たっている感じが。ちょっと斜めに写真を撮っている感じが、悪い少年の感じを表しているのかな。
S：真ん中の子どもの目つきがすごく悪かったり、ポケットに手を入れたり、白黒の写真だし、至る所でホラー的な怖さのある写真だなと
S：悪そうなボーイズに見えるけど、服装はちゃんとしている。親から着させられているけど内心は反抗したんだよ、みたいな子どもの内心。
S：左右が暗く真ん中が明るく、後の車が遠そうであっているで怖いイメージがある。男の子が左右の暗さでこっちに近づいてきているような。
S：こっちの子どものなかに、すごく殺意みたいなものを感じて、こっちがたじろいでしまう。画面が斜めになっているのも、子どもがこんな目つきをすることに戸惑いとか、そういうものを語っているのかなと。
S：穴れるというよりは、親や世間に恨みを持っているという感じ。足が完全に写っていないので、その子は生きているのか亡きかなのか。
S：子どもの周り、緑だけちょっと白く白んでいるので、この写真は、普通に撮ったのじゃなく、合成ではないのかなと感じました。
(26分00秒)

3. マックス・エルンスト『入る、出る（ポール・エリュアール邸のドア）』1923年、川村記

念美術館

- S：左の木が向こうにあるのかこっち側にあるのか、よくわからない。
S：中心の木が一番手前にあるように描かれているように見えるが、扉の凸凹みたいなところにちゃんと描かれているのがあの中心の木だけに、女の人は一番手前にいるはずなのに、枯れてないのはなぜ。
S：女の人が、片方だけ靴下みたいなものを履いているのは、なぜかな？
S：女の人の服の下半分と首がすっぱり分かれていて色が違うが、髪の毛は地毛なのかかつらなのか、わからない感じがする。
S：ドアの模様みたいなところを透かしてこちらから見えるよう。女性は目に色がかかっているマスクみたいな見える。女性の格好がリラックスして緊張感が無いので、女性はこちらを見ていないような感じ。
S：女性の体に使われている緑色が一番端の木の色と一緒。顔の目の部分が覆われている、その緑も女性がしがみついている木の色と同じ色、関連性があるのかなと。
S：女の人がしがみついている木、上の部分だけ見たら、木の方が前にあって、女の人の右足の方が後ろにあるみたいな感じに見えるけど、下の方を見たら、女の人の足のほうが前にあって、木が後ろにあるっていう、なんか変な感じ。
S：女の人が身につけている色が緑とか黄色とか赤とか、葉っぱを体現しているのか。
S：扉の部分の赤とか使った意味で、だから上から春・夏・秋・冬っていうのを表現しているのかなと。右足は、木ですごく葉っぱが全部散っちゃうけど、左足は、ヨーロッパの方だと常緑樹も多いから、四季の葉っぱを表現しているのかなと。
T：みなさんのお家にこんなドア欲しくないですか？（笑）
毎回3枚観てもらいます。その3枚には、今気づいたか何かの共通性がある。あるいは共通するテーマみたいなものがある。今日の共通点、何だったと思う？振り返ると。今日の3作品の共通点。何か一言どうぞ。（前の席から、歩きながらレコーダーを向けて）
S：明暗とか使っている。
S：位置関係。
T：どういう位置関係？
S：遠近とか・・・2枚目だったら、色を使って遠近感を出していたり、この絵でも遠近感が出ていたりする。特徴的な遠近感があったり。
S：人間がテーマって言うか、主体になっている。
T：人間がテーマ、ですね。描き方も、収め方も、人間一人が真ん中にドーンと収めてありましたよね。それ共通点ですよね。あと私が私が見るところでは・・・さっき誰か「穏やかな感じではない」って言ってくれたけど、なにが本当にほわっとして幸せだな、穏やかだっていう、そういう作品ではなかったですね、3枚とも。
(38分01秒)

【2】2009.5.13.（水）

(Vol.3, Lesson 2)

1. クロード・モネ『バラ色のポート』1890年、ポーラ美術館

- S：女性二人が乗っているのはボートだと思うけど、水と草の境界線がすごくわかりにくくて、作者もそれを意識して描いているのかなと。
S：ボートの色が赤、上に乗っている女性が白、周りも緑、すごく映えて見える。
T：そうですね。緑と赤を？なんで言うか知ってますか？
S：・・・
T：お互いを引き立てあう。非常に目立つ配色。緑と赤。中学校小学校で教わってませんでしたか？
S：なんか聞きました。
T：なんか聞いたね。（笑）補色ですもんね。補色。
S：女の二人が二人いるけど、それぞれ違う方向を見ていて、特に右の女の人の視線が、オールの前一点が何をみているのかよくわからない。
S：赤は水にきれいに映っている。結構はっきり、いっぱい映っているんですけど、人とボート？はあまり映っていない。
S：緑がすごく新しい、夏の色だなと。水もすごくきれいで、なんだか涼しげだな。
S：二人が白っぽい服を着ていて、清潔感があって、新緑で、瑞々しい絵だなと。
S：細長い形のをより細長く見せるように描いているように感じた。
T：細長いものという？
S：えーっと、カヌーですかね。僕が描いたら多分もっと広がると思う。オールも、もうちょっと短くなるんじゃないかな、と。
S：下の草と言うか新緑について、僕は混沌として、もやもやとしているようなイメージがあって、白い服の少女とはミスマッチだなと。
T：画面のどういふもの、というの描き方から混沌と感ずるんだったら？
S：無造作にばーっと草が存在していると言うか。そんな感じで。

T: 舞踏会。他には?可能性としては。
S: パーティ。
T: 他には?
S: わからないです。そういう賑やかな場面じゃないかなと。
T: そうですね。
S: 右の女性の左手が上になっているが、私は、身振りで話している感じがなくて、誰かに引っ張られているような感じを受けた。その女性が、最後の忠告みたいな感じで、左の女性が「気を付けて」みたいなことを言っているんじゃないかなと。
S: 右の女の人の前にある手は、横の方にいる男の手ではないか。
T: 男の人はどこにいる?
S: 左の・・・ネクタイみたいな見えたんですけど・・・
T: 見えますよね。白と緑のストライプのネクタイの襟元みたいに見えます。(25分09秒)

3. ルネ・マグリット『感傷的対話Ⅱ』1947年、川村記念美術館
S: 1階の窓が傾いていて、中心の何かがわからないもの。左の上にマグリットと書いてあるように見えるので、マグリットのシュールな作品なのかなと思いました。
S: 真ん中にある2つの白いものが、チェスマイ形な形で、大砲みたいなのが上に付いていて、小さな丸が目に見えて、大砲の口みたいな部分が口に見えて、速吠えをしているように見えた。

S: 鏡子みたいな感じ、高さに違いがあるの。
T: 鏡子が何してる?さっき速吠え説があったけど。
S: 話しかつてみたかな。
S: 傾いた窓は、普通カーテンも一緒に、重なり重ならず下に落ちるはずだが、カーテンも窓に付いている感じがあるので、切り取られて下に落ちたように見えた。
S: 前のチェスマイみたいな2つの速吠えが、後の窓を、その速吠えの超音波みたいなのが空間を歪めて音が曲がったような感じに見えた。
S: 海がすぐ近くに見えて、風も吹いている、朝か夕方、あの2は、海の見えるところの公園などよく置かれている置物かと思う。なぜかと言うと、これは海の方から吹いている風かと思うので、夕方海の方向の温度が高くて、冷たい方から暖かい方に風が吹くので。
S: 話窓が傾いているのと、赤い布を見ても、風がすごく強いということがわかるので、物が傾くほど強いことを表したんじゃないかな。
S: 下の赤い布を見ても、その地域は風が強い地域かと思った。真ん中の変な大砲みたいなものは、強い風を利用して音が出るのではないかな。(38分36秒)

【5】2009.6.3.(水)
(Vol.3, Lesson 5)

1. ミケランジェロ・ピストレツ『ぼろざれのヴィーナス』1967年、豊田市美術館
S: 服の山、洗濯物の山のように見えて、真ん中から立っている像がたぶん女の人、洗濯物ということから、主婦かな。でもその女の人の素材が彫刻なので、主婦っぽい生活感と真逆の神聖さ、俗世間から離れたものを同時に感じさせて、不思議なギャップ。
T: 何で出来てるって言った?
S: 石膏・・・

T: 石膏みたいなものですね。石膏のようなもので出来た彫刻。
S: 服の山があって、女性の彫刻、女性がよって迷っているみたいな感じに見える。「どの服にしようかな」「あんないいのの中から選んではいけない」「みたいな感じ、今の社会の、情報がいっぱいあって、どれがポイントかみたいな、そういう感じ。
S: 女の人の持っている布は、積まれている色とりどりの布のように、何色にも染められる、その女のは今から何色(な)にしろ)にでも染まれるような、という感じ。
S: 洗濯物の山だったとしたら、「こんなに溜まってたの!」と驚いているような表情を、前か後ろとしているように。驚いて真つ白になった、っていう感じかな。
S: その女性が持っている白布みたいなのは、その女性が着てる服を脱いで、その洗濯物の山に置こうとしたけど、あんなにも前着た、その女性の像が洗濯物の山から離されて置かれていんじやなくて、足下まで洗濯物が来てるから、それでちょっと戸惑っている感じの像なのかなと思いました。
S: 山がとぎとぎに一体化して、人の頭が山から飛び出たりしていないことから、衣類と人の一体化を表しているんじゃないかと思いました。
S: 迷ってるのだったらもって周りに散らした方が迷ってる感じが出るし、選ぶのだったらもって遠くから見んだけども、距離がないことって。足下まで来てるので、今にも飲み込まれそう感じがした。
S: 積まれている洋服の色が、あんまりきれいじゃない。選ぶんだったらもって鮮やかな色の方がいいんじゃないかなと。だから大量消費の現代みたいなものを表しているのかなと思いました。(11分23秒)

2. トニー・クラッグ『東京-ヴァットール』1982年、東京都現代美術館
S: 以前、中学校の美術の教科書で見たことがあんな感じですけど、その時にも疑問に思ってた。なぜ電話を下の面に置いていたか。普通だったら電話は台の上に置く方がいいと思うから、これを作った人の意図がわからないかな。道具で人の形を作っているのはおもしろいなと思うけど、どうして電話を床に置いたのか。
S: 人の形を作ってるのが、グラタタタけどすこ色がきれい、それを見て、この人は、くだらない話だけどすこ楽しんで話している。
T: うまく言ってくれたね。グラタタ。どうしてグラタタだと思った?
S: 概感で、タイプライターを切った感じ、パンみたいなもの、ごちゃごちゃ細々してどうでもいいものばかりだけど、色は全部きれい。
T: ほかに何が見えますか?
S: 空き紙みたいなもの。
S: 足所にある細長い茶色い木の棒みたいなもの。
S: 私もしず立っているのか?と思った。最初はたぶんその人は座って話してんだと思うけど、話の流れの中で、すこづきこがあることがあって、思わず立ちちゃったという感じで、下に電話があった人物が立っているんじゃないかと思いました。その人物の色が明るいので、すこづきこがあったというイメージがあるな。

S: これは人が話しているように見えるけど、人を構成している物たちは、白い壁にただ貼り付けてあるだけなのに、物と物の間に人のシルエットの組みたいものが見える気がして、不思議な感じですよね。
S: 人物を商品で表している、電話も旧式のタイプのなので、全体のもの使われなくなった商品みたいなイメージでこの作品を作っている。
S: 人物が壁に描かれている。貼られているし、電話が地面に置いてあるのは、その場所に人はいなくて、留守電話になっていたんだけど、人は影、電話をしている相手で、面白い話があるのになぜ出ないのかなって言う。
S: ピンクの電話はたぶん旧式だと思うから、情報伝達の幅が広がったということ、人物は壁に描かれている、でも見えないで、きれいだけど、貼り付けられたきれいな言葉?みたいな感じで、だけど自身はグラタタっぽくて自身が伴っていない、きれいな貼り付けことど自身に伴っていないことを話しているのかなと思います。
S: 人の体勢が若干前かがみかなと思った。電話もピンと張ってる。そんなにきついなら座ればいいのに。あれ以上立てないから前かがみになっているのは、そのきつい体勢が気になつて、わざわざ立って、きつくて、面くもないかな、内心は面白くない、きついんだらうなと思って、話の内容も面白くないし、ぜんぜんきつくて、もう切りたんじゃないかな、話をもう終わりたいと思っている。
S: 今コードがピンと張って、たぶんコンソートが屈かない状態、電線も結構ギリギリの位置だとする。首筋を張って、でも一生懸命話しているから、電気と離れられない現代の人間、人間の身の周りにいろいろ便利なものがびっしりあって、電線などからもう離れられなくなっているのを象徴しているのかなと思いました。(27分25秒)

3. ビル・ヴィオラ『クロッシング』1996年、Video/sound installation Photo: Kira Perov (約30分見せただけ)
T: さあ、感じたこと、考えたこと、意見、連想、疑問、何でもいいですよ。

(★26秒、拳なし、沈黙)
T: あれ、さっきまで見せてくれた知性と感性はどうしたんですか? (笑) それとも作品がいないんですか?それとも作者さんで来ないって? (笑)

(★ここまで計52秒間拳なし)
S: 見ている方から殺されそうだなと思った。怖くていうか、たとえば映画のワンシーンのような絵だ。たとえば人間関係のものが降臨したみたいのが、出てきたとか。普通の光の当たり方じゃない気がする。自分も光を差してる。頭のあたりが、その辺の光か。その辺の人間と差違っている。その中で、ちょっと怖い。
S: 神に召されている、吸い込まれている。真ん中にいる人は、もやもやとしてるところに吸い込まれていきそうなんだけど。ポーズもふわっとした感じのポーズに見えるし、怖いというイメージもあったんですけど、私まで吸い込まれそう。
S: これは列車の踏み切りで自殺した人に見えて、雨の中で。後の光が、走って来ている列車の光が山に見えて。たぶん男性だと思うけど、着ている服も普通のカラーカーテンみたいな見えるから、周りの暗さとちっちゃい光のかりから、むしろあまり神々しい感じではなくて、今から死ぬのかなという感じの方が強かった。
S: 水が結構強い勢いで上からかかっているように見える。顔の部分がすこづきこがある感じで、頭にかかる衝撃がすごいんじゃないかと思うけど、格好が普通に立っていて、足がそろっているの、受け止めているような感じがした。
S: 白い点々水しぶきに見えたので、この男性は滝の中で修行をしているんじゃないかなと。他人は「怖いイメージ」って言ったので、私にはどちらかと言うと救世主みたいに見えるました。
S: 男性の正面から水が勢い良く当たってきているよう。水って普段、私たちの味方、そんなに悪いことをするものじゃない。でも、これはなんだか水の殺意みたいなものを感じて、普段柔らかなって、危布を加えるようなものではないかな。余り恐怖を感じた。男性は水を受け止めたところで行っているように見えた。それとまたすこづき怖いなあと。
S: 水が滝に見えて、男の人も髪を丸めているように見えたので修行の人かなと思った。先生が言ったように、水というものはいろいろなものを洗い流してくれるというイメージが僕にもあって、修行で自分の欲望みたいなものを水をよって洗い流してもらうというところで滝に打たれているのかなと。周りが黒いのは自分の影、真ん中から強い光が当たっているの、その修行を終えて、欲などを取った瞬間のシーンかな。
T: 修行をするって、襦(みそぎ)、解脫。そうすると水のプラスのイメージとつながってくるのか。清めるとか。ああ、おもしろいな。
S: 水が落ちて、水の横に2本、線があって、洞窟のS入らしい家庭、上のは鐘の音っぽいかな。光の当たり方でも思った。下の白い水はモークっぽくも見えないし、水としては滑らかな。あそこはたぶん光が当たっているんだらうかと。ほんとにどういふ風に振っているんだらうかと不思議。
S: もしかしら前を向いて行くのかもしれないんですけど、あの男の人、緑のところからリュックの背に見えて、向こう側に行くイメージ。雪山に今から行くみたいなイメージ。白いのは雪の日の夜にライトが当たったものすこづき明るく感じる感じで、周りが粉雪が舞っている、この人は今から雪山に行って、すこづき危ないんだけど、自分はあんまり危ないと感じてなくて、むしろここに行きたいと思っているのかな。

S: みんな神聖なことをおっしゃってんですけど、私はばかかなことを考えてしまつて、これは前ゲームか何かで、水が降って来て、男の人はたぶんスキニッドで、光を当たったから顔の光が落ちちゃって、意外と神聖な感じに変わったんじゃないかなと思います。(46分58秒)

【6】2009.6.10.(水)
(Vol.3, Lesson 6)

1. トレイシー・モファット『なにかもう少し#1』1989年、Courtsey Roslyn Oxley9 Gallery, Sydney
S: これは絵ではないです。「写真みたいな絵」というのもあるけど、これは写真です。(約40秒後)
T: では、いきましようか。どなたでも、どうぞ。

(拳手無く15秒経過)
S: 写真を普通に撮った割には、コントラストも、彩度も相当高いような気がするんで、それで余計めかかっているような感じがしました。
S: いくつかの世界観が重なっている気配かなと思って、背景と、真ん中からちょっと余りにいる男の人が農作業をしているみたいな感じで、それが一つ、酒屋のような建物と一番目立つ女の人でもう一つ。最初、左にいる男の子の2人は背景の世界観と一緒ののかなと思ってたけど、その割にあまりはききりと描いている気が、ぶれてるような感じがして、これでもまた一つの世界観のなかなと思ったけど、その割にはみんな中央の女の人を見ているように見えるし、すこづきミスマッチな絵だけど、どこかどつがついているイメージがしました。

T: 他に?
(拳手無く6秒経過)
S: 写真を着た女の人を見送る図、みたいと思いました。なぜかと言うと、子どもたちは拍手をしているように、「行ってください」みたいな感じで、拍手をしているからぶれているの、動いているからぶれているのかなと思った。すこづき、帽子を被っている男の人は、見送っている感じもするし、白いドレスを着た女の人「がんばってください」みたいな視線で後押ししているような感じを受けました。
S: 中央の女の人が、都会に行く予定が本当にあるかわからないけど、スターを夢見ているのか、だからあのポロポロのチャイナ服が偶然手に入つて着て、表情からもスターを夢見ようとしていっているような感じが受けました。そのチャイナ服を着てスターになりたくないかな。右の白い服を着ている女性は、「またやっつてよ」みたいな呆れた顔で見ている。(13分30秒)

2. マックス・ベックマン『レリング』1921年、青島県立美術館

S: 新聞に描いてある風刺画みたいな感じ。何の風刺かちょっとわからないが、真ん中で男性2人が抱き合ってるっていうのが、闘っている。手前の人や左端の女の人をを観察して賭けをしている。競技場という感じ。
S: 男の人たちが争ってる場所が、ステージの上みたいな。周りに2階、3階があって、観客がその間かミュージカルを奏そうに見える。
S: 私これ劇場とかステージに見えて、上のカーテンみたいな二つが掛かっているところは舞台の幕、ステージの板がわかっての辺りに、指揮棒を持っている人、劇場の下に段差がある、そこがオーケストラがいる。後の絵もバックの背景、板か何かの描いてあるように見えました。
S: 真ん中の開いているように見える男の人2人は、その劇のストーリーにはないのに、些細なことや喧嘩によって、劇の中に喧嘩した。その中で、右の座っている人って、怒って、見ような顔で見ている。観客が喜んでいるように見える人たちは柄が悪そうに見えるから、本当はストーリー上に無いものだけ楽しんでるような。

が無くて、あの絵以外は本当に白い色というモノクロに近い世界なので、なんだか顔縁のあの女性、色の白さで女性か男性かによって、たぶん女性だと思ってしまう。その顔縁に描かれている向うの側が今私達がこの世界で、顔縁の向うの側が別の世界を覗いているように見える。顔縁の向うの側が別の世界なんですけど、至今写されているこちら側はまだ色が付けられていて、これらが付けられようとして、芸術上の世界なのかなと思いました。

T：日常と芸術。日常と非日常ですね。あそこは白い石像と白い立体物ですね。立体で人物を作っているものが、あそこは白くあって、あそこは、突破口開けた感じ。どうぞ。(4分47秒手無し)

S：白いと、窓の中の人が同じ人だと思った。ドラえもんやタイムスリップをして過去を変えたいというシーンを思い出して、窓の中の人の表情が白いのほうをいふかばいに見ていると思うので、これら起こる何かが知っていて、見守っているんじゃないんですけど、心配せずに見ているのかなという事を思いました。

S：立体は後の絵で一つの世界が併存している。絵の回りが顔縁というより窓枠に見えて、その中に覗いている人の顔が奥よりも手前に出ている方向ですけれども、本当は手前の世界のほうが明るい。覗いている人が出て、何もないような感じにするので、実はこっちの世界の方にいろいろなものがあるけれど、覗いている人を中心と考えたら今は何も無いように見える。本当はこっちに光があるのに、覗いている人物は、その中に入り込めていないのかなと。

S：バルコニーみたいなところの床とか柱とか手すりはずっとくっついていっているように見えるのに、真ん中はそこまですくなくていいんですけど不思議。だからこのバルコニーと像自体は別のものを表現したのかなと思ってました。

S：同じモデルだとして、そのモデルは絵と彫像で表して、それを同時に並べるのは、とても珍しいことだよね。同じモデルを彫像にも並べることには何か意味があったのかな。

S：白は発表裏と白いのを照らすことがあって、彫り師の造像はバルコニーかと思ったんですけど、像の人物像を持っている感じがしたから、彫りのホームみたいな印象を受けて、「銀河鉄道」で死者が電車で乗っていくみたいな、そんな印象を受けました。

S：絵面に描いてある人の目線がちょうど目線が通って、そういうことは、この写真も撮った人は、描いてある人は光の方向を向いてたんだよ、そんなことを表しているのかなと。成功と不成功とか、光が入って方向によってこの立体作品ですごくイメージが変わると思う。

T：ほか？(挙手無し) (まとめ)

(24分40秒)

3. 森村真吾『ポートレート(FUTAGO)』1988年

T：笑いが起こりますか。(笑)

S：(笑) これはマネタスの『オランピア』っぽいですね。まさか。(笑) モデルをおかまに変えるとは思っていませんでした。(笑)

S：これはひどい！(笑) つつこみどころが多くて、コメントが付けにくい作品ですけど、一つ質問ですけど、髪や髭がっている男性がおかまが下から覗いているのは、たぶん着物が何かで、男の人だけが目が見えますよ、いろいろ見えて、他にいろいろ文化のものも混じっている。たとえば、黒人の人が着ているのは明らかに日本じゃないところの服だし、奥になるころが何かあるんじゃないかと思って、誰か指摘してくれない？見えてるもの。

T：「こんなものがあるんじゃないか」と、誰か指摘してくれない？見えてるもの。

S：指さす中国の女の顔。S：歴史的に中国の高級な・・・名前が思い出せないんですけど、それです。よく見ると髭が入っているよ、男性の胸の高さのところ髭がなくて、絵が分割してあるようにある。実はこれ、相当つかい絵を組み合わせて作ったのではないかなと。

T：ドビジャです！4分刷りしている線が見えますよね、これは大きな写真ですよ。おそろい現物は、今見えてもいいもつと大きいかも知れません。

S：みんな「おかま」とかひどいこと言ってるけど、あれは女形じゃないんですか。劇とかで、男のみの劇は女役を演じる。あの花嫁みたいなのが贈り物かな。そういう女性の男性的な面を表すモデル風に見え写ったのではないかなと思いました。

S：これはいつの時代の作品なのかすごく気になって、正面の男の人が白人ですよ。ちょっと前だったらすごく黒くって差別されているけど、黒い人が召使扱いられているから、そういうのを描きたかたじゃないかな。人種のことを黒人かたかただったから、黄色人種を描きたかただろうけど、入る顔がいろいろ、下とか髭が黄色人種っぽいものを配置してあって、そんなことかなとずっと思いました。

S：おくの上の男の人は腕が伸びているけど、顔で、サンダルを履いてままたまのなかなと思っ、よく見た男の人はそこらごう物じゃないけど、首にも何かわからないけれど着けてし、頭にもヘアピスはかきこんだ髪型を付けていて、小物で入りしさを表しているのかな。

S：この2人の人が両方とも日本人だと思ったんですよ。『オランピア』が発表された時点で、結婚を描くというコンセプトですごく衝撃的だったと思うんですけど、しかもすごく挑戦的なところを見ている。どっかの本で読んだんですけど、これを見て怒る人がいるけど、発表された時ヨーロッパでなくて、今回これは『オランピア』を真似て日本人がこういう好意を持って、今では読まないけど、やっぱりショックなんでしょうね、それを「日本人がやるってかかるとか、着物や引き猫を盗んだのかだ。黒人さんは真似たことには結構半端じゃないですか、それも、わざと日本人がやるってのだからよして、「また日本からショックな芸術を発信してくるんだ！」みたいな意気込みを感じました。

(41分28秒)

【9】2009.7.1.(水)

(Vol.3, Lesson 9)

1. ルイザ・ヴィダル『母性』1879年頃

S：すぐと思ったのは、あまり裕福そうな家庭ではないということ。家の中は広い感じがするが、表情は優しい、着るものには粗雑で、女の子の髪型が男の子サだと、顔もちょっと汚れていたりして、今では読まないけど、それを僕が愛したのかなと。色黒いも、ちょっと暗めの色を使って、奥の方にさげてる布以外は全部黒いトーンで統一してあって、あまり裕福でない、気持的に金銭的にも。

S：自分もそう思って、奥のほうで光っている、あれって何か、外？外の光で、ドアも無いし、家の造りもアメリカの家みたいな感じだったので、金銭的にかなり危険。

S：家の壁の色が白。人が着ている服が黒なので、心が沈んでいる感じが出ている。

S：前の女の子が一人で遊んでいるのは、後のお母さんみたいな人が赤ちゃんを育てていて、自分かまっつもらさずおいてる感じ。たぶんその赤ちゃんは男の子だと思ってるんですけど、こういう貧しいところって女の子より男の子のほうが重視されるので、「女の子はもうどうでもいいかな」とみたいな感じで、女の子は男の子より貧しい感じの格好をしているんじゃないかな。

S：2人が真っ黒な服を着てから、裸股じゃないかと思っちゃった。女の子も悲しみに暮れたような顔をして、家裏がもう一人いて、それがよくわかってたのかなと思いました。

S：子どもが椅子に座っているという時点で、これは2人の家じゃないのかなという感じがした。普通子どもも座ったのに座って遊ぶ、あまりにもきつと過ぎているというのがあったので、どこか家は別の場所なのかなと思いました。

S：この女の子がいるのは、家の外じゃないかな。ドアは気になるけど、上から布がかかる形なのかな。家の壁は母親の心を表している、もうこの女の子は母親の関心の外にいらってこをこの絵を描いた人は表したかったんじゃないかな。

S：さっき「2人の家ではないかもしないか」というのを聞いて、長屋を想像しました。右上に文字が書いてある仮面みたいなものがありますが、表したいものなのかなと。

S：貧しい家だ、その人形を置いて経済的貧しいんじゃないかなと。想像さんが下の子に構わなければいけない、で上の子は貧しくさみしそうにしていていって、ちょっと無理して人形を買ってあげたんじゃないかなって考えた。さみしい中にもあんな感じにするなと。

S：日差しの入り方や建物と遠りを見て、気候的に暑いところかな。寒いところだったら、こんな服は服のいいと違ってたんじゃないかと思っ。エジプトとか暑い国だったら、こういう黒い服は熱を吸収するのだからじゃないかと思っ。普段は絶対だ。だから、さき衣服という意見があったんですけど、そういう機織的なもの前か後で裏腹を着ているのかなと。

S：私も、女の子の下の子が生まれてきているのと思ったが、女の子はただすねているだけじゃなくて、人形をあやしているように見えて、お母さんの真似をしているようにも見える。病に立腹さんを取らねている気持とか、弟を可愛がる気持の両方が表されているのではないかな。

S：奥に赤い布があるから、黒の上に赤があるから鮮やかに見える、お母さんの真似とか、人

形を買ってあげたとか、そういうあったかい感じを表しているのかなと。

S：この子は無言でいる椅子らしきもの、本当に椅子なのか。普通、前に構いたいものって椅子には無言から、あれは椅子じゃないか、たぶん何かじゃないか、不安定さを感じるのと、女の子の「構ってほしい」という心情の不安定さを表しているのかな。

S：裏腹という意見を受けて、女の人が抱えている赤ちゃんははくなくて、女の人の手前のあれが指輪なのかなと思っ。S：一見あの母親みたいな人が小さな赤ん坊の子を見ていないように見えるけど、実はあの人形を持っている女の子もちゃんと見えるように扉を開けているのではないかなって思っ。(19分05秒)

2. ボール・デルヴォー『出現』(クロード・スパーク『鏡の国』のための連作『嵐』) 1978-79年

S：『千と千尋の神隠し』を思い出してしまって、あの男の人が元の世界から全然違う異世界に、神隠しみたいなのを連れて、来てしまっていて、驚いているように見えたり。

S：女の子が、『ヴィーナス誕生』の絵にちょっと雰囲気似ているかなと思っ。S：顔つきの割には、体が大きな女性に近しいものがあるって、髪の毛もヴィーナスみたいな感じでおおやかで、裸でしかも色がすごく白いので、女神とか妖精とかいうか、男の人にとってはそういう意味があったのかなと。そういう意味の幻想かな。

S：右側には立っている女の人は、男の人のほうを見ているように見えるんですけど、男の人は女の人のほうを見ていないので、男の人はこの不思議な世界に足を踏み入れたばかりで驚いているのに、女の人は男の人が来るのをわかってるよね。

(挙手無し 6分経過)

S：すごく鋭い感じの絵。絵の具はよくない、ちょっと削れた感じのタッチ。どういう画材で描いたのかな？っていうのが疑問に思っ。T：いいこと言ってくれましたね。内容の話がずっとできてますけど、今度は形式、技法の話です。疑問を言ってくれたので説明をしますけど、今言ったこととおおり、これは絵のよべとバタと描いたような絵ではないですね。たさんの線が見えるし。エッチング・・・版画でエッチングとかドライポイントって、やったことないですか？(ドライポイントとエッチングの説明 エッチング、版画なんですけど、これは、硬い線の集積になってますよ。)

S：最初、2人しか登場人物はいないのかなと思っ。どうも、後ろの方になんか人が・・・私には見えるんですけど、その人の服装が警官のようで見えて、草なぎくもの事件じゃないんですけど、女の子が裸で、男の人が「警官に捕まっちゃうから、自分のうちに来いよ」みたいな感じのシーンではないかなと思っ。

S：すごく森が深いと思っ。下にタイムルがあるから、神隠しという家かなと。家ごと違う空間から移動して来たかと思っ。S：色が全体的に暗くて、女の子が真っ白で、すごく女の子が目立つような構成になっている、女の子に集中させたかったのかなと思っ。

S：女の子も真っ白ですけど、男の顔と手、陰に入っているのもかわらさず真白なので、版画なので仕方ないのもかもしれないけど、なんか違和感を感じる。

S：第一印象は『不思議の国のアリス』を思い出しました。女の子が変な世界に迷い込んで、あの男の人人間っぽくない、人間の格好をした何か別のものなのかなと。S：女の子の髪の毛がところどころまだらに赤い色がついていて、何なのかわかんないんですけど、花が何かをまわっているのかな、人間っぽくない印象を受けてました。(33分25秒)

3. エル・グレコ『受胎告知』1590-1603年頃

T：みなさん、割と美術が好きなお人が多いでしょうから、どこかで見たなっていう人、結構多いと思います。題名とか作者名まで思い出せないけど見たことはあるぞ、という人は多いと思っ。まだ今日発言していない。

S：最初にこの作品を見て頭に浮かんだのが、「受胎告知」ってあるじゃないですか、ガブリエルが聖母マリアにキリストが腹に宿ったっていう受胎告知、あのシーンを思い出したんですけど、たぶん違うだろうなとは思っ。一見見た印象が、あれで、天使がいて、それには女性が一人で、天使が女性に何かを教えるようにしている、それからそう言う想像しました。

T：さすがお大学生、「受胎告知」じゃないかなとさう思っ。何か違うんじゃないか、そこらへんの違和感。「受胎告知」にも美術史上いろいろな絵がありますけど、この絵が「受胎告知」ではないんじゃないかと思っ。S：以前、絵本が何かで見た時は、ガブリエルの服が白かったっていうのと、マリアの服もどっちか言えば青とそれを基調とした服だったのと、あと絵の真ん中にある鳥みたいなものが、「え？鳥とか、あの場面に出なかったっけ？」みたいな、そんないろいろな理由で、ちょっと違うんじゃないかというのがあります。

T：一つは色使いだね。「こんな派手だったっけ？」と。(9分07秒手無し)

S：難か作者がエル・グレコだと思っ。S：難か作者がエル・グレコだと思っ。S：私がいとも「受胎告知」って言われて想像するのは、すごく静かな場面で、天使が来て諭すように伝えるっていう場面を想像してると、これは後で思い返さないと、天使もすごく静かできで伝えてくるっていうのが、やっぱり普段と違う原因かなと思っ。

T：そうですね。(解説、省略)

S：地元が岡山で、大原美術館に何度も行って、実物も見てるんですけど、他のルネサンスなどの「受胎告知」とはやっぱり何度見ても違うなと思っ。S：天使の羽の位置がちょっとおかしいなって思っ。やっぱりそうだし、私ももっと羽が大きいでもいいかなと。羽の色が黒っていうのが気になって、やっぱり天使だったら真っ白というイメージがあるけど、鳥は真っ白じゃないですか。

S：赤いスカートの中が変な形をしているので、スカートの中は脚じゃないのかなと。S：うろ覚えなんですけど、聖書のこの場面はマリアがガブリエルの告知を最初に素直に受け取ってないんですけど、ちょっと戸惑ったか、衝撃を受けたかと思っ。だから、それを考えたら、この絵の赤い色使いだとか、背景に描かれていますっていうのは、あなたが大好きではないのかなと思っ。マリアの心情を表しているのだとしたら、わかる気がします。

S：この絵の中に意味のわからないものがある。赤い服を着た聖母さんみたいな人の頭の上に赤い点々が輪つみみたいな感じになっているのと、天使の翼の下にある青っぽいもの、雲っぽいもの下にある緑みたいなものとか、意味がわからないなと。(骨は鳥、鎖は花、それぞれ見間違っ)(47分29秒)

【10】2009.7.8.(水)

(Vol.3, Lesson 10)

1. ジャン・オノレ・フラゴナール『水浴の女たち』1772-75年

(あまり多くの手は挙がらない)

S：全体的に色使いが明るい色を使っていて、描かれている女性たちの表情を見て、なんとなく楽しいような雰囲気を受けました。(37分07秒手無し)

S：輪郭線がぼやけているので、暖かい星の2、3時ぐらいを思っているのかな。ほのぼのとした感じを出すため、柔らかな描いているのは、リラックスしている様子。

S：前の方は比較的輪郭がはっきりしているように思っ。だから前と後の距離感がそれでは出ないんじゃないかと思っ。S：この女性も、水の中に入っているように見えるので、川とかで水浴びをしている図なのではないかと思っ。

S：雲とか木とか丸い感じを描かれている、人がいる真ん中、木に囲まれて丸い感じになっているので、暖かい感じがしました。

S：使っている色は暖かいけど、鮮やかではないかな。葉っぱを描くにも、ほんとは明るい色、楽しい、リラックスした絵だったから、もっと緑を青々しく描くと思う。で、秋に入りかねたか、ちょっと褪せたように、葉葉が落ちているような葉っぱの色なので、リラックスしているというよりは、気だるい感じを受けました。

S：女の人の腰のところに手みたいなのが見えるので、実は川の方に引き寄せられて溺れそうな感じなのかなと思っ。(8分07秒手無し)

S：女神像を描くには神話の口実が必要と思うんですけど、そういう神話の場面には見えないもの、もうあからさまに女性の裸を見るために作品を描いていい時代のものなのかなと。(12分08秒)

2. ジュン・グエン=ハツシバ『ハッピー・ニュー・イヤー：メモリアル・プロジェクト ヴェトナムⅡ』2003年
 S：非常に色あいがきれいな作品だと。白と青をバックで、その黄色というか黄緑色が映えている。光の加減をうまく思って海の中の特徴をよく描けている。描けているって言うか写している写真、たぶん写真だと思うんですけど、写真かなと思いました。
 T：写真じゃないかって言うんですけど、これも言うた方がいいかな？これ元はビデオ作品らしいんです。映像らしいんですよ。だから本当は動いているんですけど、その一面面だから写真みたいなものですね。という風にしてみると、また見方が違ってきますかね。
 S：生き物が何か、竜みたいなものかなと思った。描まてているのがわからないんですけど、竜は昔から沼とかに棲んでいるというイメージで、沼には海みたいなきれいな色の水だなと。
 S：たぶん泳をしている途中だと思うんですけど、その方法が、色彩が現代的な割には、モリとかロープとかを使ってすごく原始的だなと、一見普通に泳をしているように見えるけど、描まてている動物が、普通には無いはずの動物で、色彩も海の青を背景にしてとすごく浮いて見えてそこがちょっと不気味だなと思いました。
 S：描まてているというよりは、竜の形じゃないんですけど、祭りとかでよくこう、あの棒を動かして竜が動いているように見せたりするような感じに見えたんですよ。
 S：こっちにあるのが扇風機みたいに見えるんですけど、あれで竜みたいな人形を動かして、泳いでいるように見せるのかなと思いました。
 S：僕が中学時代に、一つ上の先輩が体育祭で、ほぼ同じようなことをしていた。僕が中学時代に見たのは相当動きが速かったんですよ。水中なんです、さっき言われたとおり抵抗もあるんで、相当ゆっくりな電を表現できるんじゃないかと思いました。
 S：光のすくきれいな当たり方と影を見て、それから撮影したのかなと。ほんとに光の使い方が巧くて、竜の肌の色がきれいに見えて、すごく印象もいいなと。
 S：どうしてスクリーンを画面に写す必要があるのかなあと私思いました。
 S：トルコにネッシーがいるとかあった、人がネッシーを動かすのと同じように、この人たかも竜みたいなものを水中で動かして、電だけ水面に上げて、伝説的な生き物が実際にいるんだというのを表現しているところを、水中から撮影したのかなって。
 S：画面をスクリーンをまたこう話。これはまた別に他のところで本当の撮影をしていて、映像を撮っている過程をまた別に撮っている・・・クリエイト・オブ・ムービーというか、だから機材とかがはっきりと映っているのかな。
 S：大掛かりな作品だなと。水の中に人が、見えるだけで5、6人いて、水中での作業は力も要るので、アシスタントを雇うのも大変だろうし、水の中にあいものを入れると、絶対壊れたりすると思うんですよ。だから素材が何なのかな気になって、スクリーンも個人的な所有物じゃないだろうし、本当に大掛かりなものなんだなあ。
 S：なぜあえて水の中でのやるのかっていうのをずっと考えてたんですけど、みなさんが水の抵抗とか、水面のとろから光とかの話を聞いていて、水の抵抗によって余計電を動かす力が必要なので、余計それで電力が強さとか、光が来ることによって、地上では出来ない、雲の間から光が差す状態っていうのを、海の中では似たような状態を作ることが出来ると思うんですよ。それで余計電が力強い昇天していくような状況作れるのかなあとあって、その水の中でやることの意義を考えていました。
 S：みんなの電のイメージが空を飛ばすように思うんですけど、電は水神とか青竜とかで、水の神として崇められているから、それを表現するために水の中でやっているのじゃないか。(28分25秒)

3. マックス・クリンガー「不安」『手袋』より、1893年
 S：非常に不気味な作品だと思います。右側には袋の上に生首みたいなものがある、中央

と左側からは手が何本も飛び出ているようになっていて、何を表したいのかさっぱりで、全体も真っ暗で、とても不気味な作品だと思います。
 T：何がどこにあるか、もう一回言つて。
 S：中央と、左からも2本。
 T：ああ、左にあるよね。首に対して非常に大きな手だよ。真ん中にある手っていうのは、これ？これ？
 S：そこが何本かの指に見えて
 T：何かをつかんでいるよ。ここに人物がいますよね。
 S：さっき左から手が伸びているのを言ってくれたんですけど、右の壁よりも前で首よりも後にオブジェみたいなものがあるんですけど、それと左の手の形が一緒のような感じがしたんですけど、だから、何か示したいものがあるのかなと思いました。
 S：ペツと見て思ったのは、これは場所はどこなんだろうということですよ。左側の下の床、フロアのところだけを見ると水の上のようにも見えるし、右の生首がおいてあるところを見ると、普通にシーツの上の上のようにも見える。その海の波の波のようなものもつながっていて、場所がどこかわかりにくくさせているなと思いました。
 S：水みたいになっているところがあるので、洪水か何か起きて、家の中に水が入ってきたのかなと思いました。右の人が悪夢何かで苦しんでいて、それを真ん中の人が助けに来たのかな。
 S：私は、右の顔が、生首ではなくて、膝を立てて寝ているように見えたんですけど、人が、この場所は、なんとなく密室のような気がして、第二次世界大戦のユダヤ人のガス室みたいなものをなんとなく思いました。
 S：「ノアの箱舟」を思い出したんですよ。舟が壊れ始めて、浸水し始めていて、真ん中にいる人はそこに寝ている人を起こそうと頑張っているんですけど、まだ右の男の人はベッドにいますので、浸水に気がつかなくて寝ているままで、左の人はもう流されていって、もう全無しか見えない、という風に見えて、周りにもあるものは、舟にあったものが部屋の中にもわちゃくちゃに入っていたりする感じで、あともう少しで全部沈んじゃうっていう風に、寂しい感じを受けました。
 T：そういう、もう大変な場面、洪水で「ノアの箱舟」も連想される。悪夢にうなされているか、とにかくあれは寝込んでいるんだね。僕も今の意見を聞きながら思い出したな。ディズニーの『ファンタジア』を思い出したんですよ。水がどんどん増えてい。そういう場面ですよ。
 S：この絵は黒と白しか使っていないので、ピカソの『ゲルニカ』っぽく感じました。ピカソの『ゲルニカ』にたとえるなら、ピカソは、空襲から逃げ惑う人たちが、空襲で死んだ人たちを描いたりして、そのむねとして強烈な感情を、黒い背景と白い人々や手を装束時に使ったので、この絵もたぶんそれをイメージして作ったのかなと。でも手しか無いので、たぶんこの手で、助けを求めるとか希望を、なにか握っている手があるじゃないですか、あれは何か、希望をつかもうとして、助かろうとしてそのまま死んでしまったっていう感じの手かなとか、いろんな人の意思とかがこの絵の中に出てくるんじゃないかと思ってます。
 T：(中略)手袋がこの絵の非常に重要なファクターなんですよ。どんな話かというのは、またあとでデータのプリントを見てみてください。何らかのお話があるってことはわかりますよ。何らかのストーリーがあって、その場面というのはいわゆる、これ、元は10枚の連作の版画なんだそうです。さっき指摘してくれたように、この人がうなされているんですよ。その元は手袋なんですよ。じゃあ、どういうストーリーかというのは、あとでそれぞれ見せてみてください。今日の3点の共通点は水でした。ありがたうございました。いやー、すごい。(42分11秒)

【資料2】Vol. 3 アンケート集計結果

図版	キットとの対応、作者名等	設問1(1)	設問1(2)	設問2(1)	設問2(2)	設問3
1a	Vol.3 L.1 マレーヴィチ	6	2	3		
1b	Vol.3 L.1 森山大道	6		6	2	1
1c	Vol.3 L.1 エルンスト	3		12	3	
2a	Vol.3 L.2 モネ	2	1	6	1	
2b	Vol.3 L.2 シャガール	10	1	4		2
2c	Vol.3 L.2 《インドの聖者ガンタバ》	3		2		
3a	Vol.3 L.3 古賀春江	8	2	1		1
3b	Vol.3 L.3 シャヴァンヌ	5	1	2		1
3c	Vol.3 L.3 中山岩太	3		13	2	2
4a	Vol.3 L.4 ヘレン・レヴィット	6		3		3
4b	Vol.3 L.4 ティツィアーノ	2	7	1	1	
4c	Vol.3 L.4 マグリット	6	2	9	2	1
5a	Vol.3 L.5 ミケランジェロ・ピストレ	11	1			
5b	Vol.3 L.5 トニー・クラッグ	9	4	2	1	2
5c	Vol.3 L.5 ビル・ヴィオラ	3		9	3	1
6a	Vol.3 L.6 トレイシー・モファット	6	1	5	1	
6b	Vol.3 L.6 マックス・ベックマン	5	1	1		
6c	Vol.3 L.6 マンテーニャ	11	2	1		
7a	Vol.3 L.7 北野恒富	6	1	5	1	
7b	Vol.3 L.7 浅原清隆	3	2	7	3	
7c	Vol.3 L.7 ロバート・ウィルソン	1		6	2	1
8a	Vol.3 L.8 亀井藤兵衛	4		4		
8b	Vol.3 L.8 ジョージ・シーガル	5	3	7	1	3
8c	Vol.3 L.8 森村泰昌	7	1	4		3
9a	Vol.3 L.9 ルイーザ・ヴァイダル	4	1	1		4
9b	Vol.3 L.9 ポール・デルヴォー	5	2	6	1	2
9c	Vol.3 L.9 エル・グレコ	5	1	3	1	
10a	Vol.3 L.10 フラゴナール	5	1	5		
10b	Vol.3 L.10 ジュン・グエン=ハツシバ	6		1		1
10c	Vol.3 L.10 マックス・クリンガー	1		12	4	